



5
「砂」

五 ★ 砂

潮風を感じるカフェに来てみた。その店には飲み物だけでなくトーストなどの軽食もあり、小腹が空いた今の気分にはぴったりだ。お店に入る直前、テラス席が目についた。丸いテーブルに、カラフルな椅子。店内は混み合っていたが、テラス席は旅行で来たと思われる外国人家族がいるのみで空いている。彼らの雰囲気はなんともテラスに合っていて魅力的に思えた。よし、ここは青空の下でコーヒープレイクといこうじゃないか。

注文の品を持って、席についた。表面にハートマークが描かれたラテと、クリームがちよこんと添えられたワッフルがテーブルに乗る。顔を上げれば抜群の景観で、目の前には青々とした芝生、その先にきらきらと輝くように海が広がっている。完璧な昼下がりがだ。

普段お店に来て自らテラス席を選ぶことはまずない。だって目立つもの。コーヒーはなるべく片隅で飲んで、しばらく目を瞑って頭と心を休めたいのだ。それがいつもの自分。そんな人間をこのテラス席へと導いてくれた素敵な外国人家族を紹介しよう。今にも走り出しそうなスポーツカーが似合う若いご夫婦、息子さんと思われる『ホゲータ』がプリントされたトレーナーを着ている5歳くらいの男の子、そしておそらくおばあさまであるう、ボリュウムのある白い髪に黄緑のストールと大きめの黒いサングラスが印象的な、気品漂うマダムの4名様だ。ようこそ日本へ。

ワッフルを口に運ぶ際、「これはリエージュ風だな」と思った。こんなグルメ通のようなことを言い出す時点で、このシチュエーションに浮かれている。小ぶりなワッフルだ、いつもならずでに半分、いや食べ終わっていてもおかしくないのに、やれ〇〇風だ、このクリームはおそらく植物性だ、などと考えている。テラス席がそうさせるのか。

ただ、情報には自信がある。以前、店舗で生地の発酵から焼成までおこなうこだわりのワッフル店で働いていて、毎朝5時（！）からせつせとワッフル作りをしていた。そのお店の研修で学んだのだ。本場ベルギーのワッフルには『リエージュワッフル』と『ブリュッセルワッフル』の2種類があり、リエージュ風は丸型が多く食べ応えのあるもっちりとした食感で、生地自体に甘みがあって基本的にトッピングせずそのまま食べるもの、片手で食べられる手軽さが魅力であるのに対し、ブリュッセル風は四角形のものが多くワッフルそのものの食感は軽やかで、通常生クリームやチョコレートソース、フルーツなどがトッピングされており、お行儀よくナイフとフォークで食べる。トッピングがあるのがひっかけだが、このモチモチとした生地感、そして生地に練り込まれた『パールシュガー』と呼ばれる砂のようにざらついた砂糖、これはリエージュの特徴だ。シンプルな見た目ながら、なかなか手の込んだ逸品と見る。テラスにしていると、こんなうんちくさえも滝のように垂れ流してしまう。

ビューーン。僕の浮かれた気分を吹き飛ばすかのよう
に、潮風にビンタされた。そういえば来る途中の海岸沿いで、カップルがT i k T o kか何かを撮っていたのだが、

彼女さんの帽子が飛んでいってしまいキャツキヤ言っていた。風が強いのだ。ホゲータの少年はアトラクションのように強烈な潮風に火力が上がったようで、こちらもキャツキヤ言いながらそのあたりを走り出した。微笑ましい光景だが、こちらはお食事中。シンプルに、「風よ、とまれ」。普段、「いい風を感じたい」だの「風に乗ってどこまでもいきたい」だの言ってるくせに、我ながら都合のいい話だ。お構いなしに、また大風が吹いた。おもちゃのかざぐるまがあったなら、クルクルクル賑やかに回転しているだろう。思わず僕は、誰に向けているのかもわからない苦笑いを浮かべ、身じろぎした。

その時、何やらただならぬ雰囲気を感じ視線を右に移すと、驚きの場面を目の当たりにした。先ほどのマダムの長いホワイトヘアが、強風で巻き上がりライオンのようになっだいじゃているではないか！首に巻きついた黄緑のストールも大蛇のごとく暴れており、「ヴィランここにあり」という佇まいで凄まじいオーラを放っていた。さらに驚くべきことに、その勇敢なライオンは、この嵐の中にあって全く動じていない。"wow"とかそういうのなしに、ただ平然とティータイムを続けているのだ。

へらへらと顔を背けた自分とあまりに対照的なその姿を見て、これくらいの波風など気にも留めず、泰然自若としているべきだな、とおもった。

男の子は相変わらず元気に走り回っている。今にも炎を吐き出しそうだ。お母さんは"STOP"としきりに声かけをしていたが、止まるわけがないよな。僕はワッフルの

お皿に少しついてしまった砂を指でよけ、本来の早食いを
発揮し、足早に次の場所へと向かった。

今度コーヒーを啜る場所は、やっぱり店内の片隅かな。
忍耐力が向上したかを試したくなったら、またあのテラス
席に座ってみることにしよう。